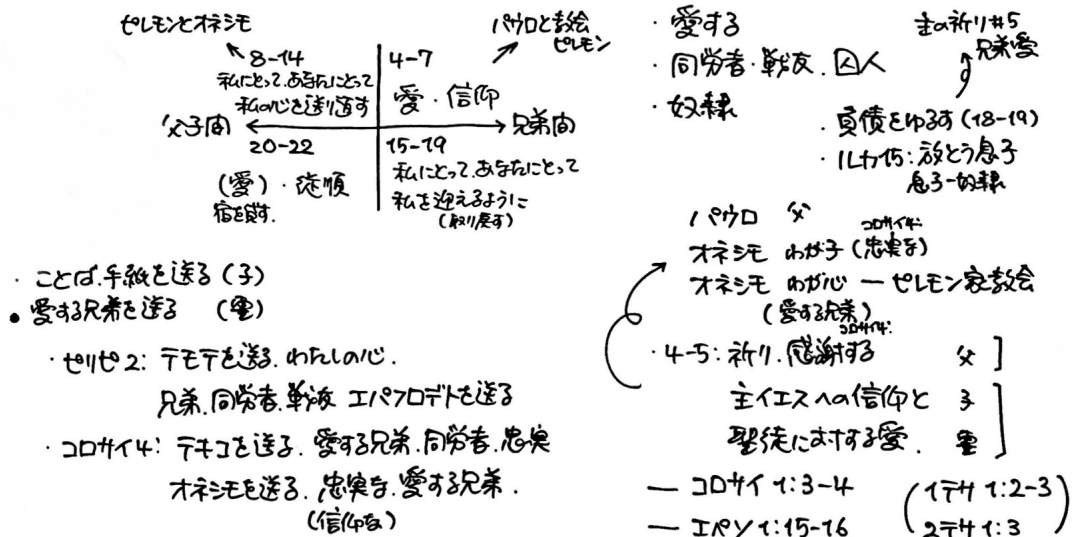




ピレモンへの手紙

ピレモン : 愛おしい

2016.8.5



ピレモンへの手紙を分析してきました。形は、出だし(1)と終わり(23,24)に「囚人」と「同労者」、「祈り」(4)から「安心」(7)、「安心」(20)から「祈り」(22)、ここに(10)オネシモ、(15)オネシモというピレモンとオネシモの話という形だよということでした。形がそういうことは、だいたいわかっていましたけれど、もう少し細かく見てもそうなっているということを見ましょう。

13節から14節に、強制されてではなくて、自発的ということがあります。18節、19節にも私が払いますというような話があります。命じることができませんけれど、あなたは今のようになったのは、私によりますけどと言いませんというようなことが、おまけのようについています。この段落(13,14)とこの段落の終わり(18,19)が似ています。1個前のところ(12節)を見ると、私の心そのものです。パウロの心そのもののオネシモをあなたに送り返します。(17節)オネシモを私を迎えるように迎えてくださいというように取り戻す話をしています。それで、その1個前(11節)「あなたにとって…私にとっても」と、(16節)「私にとって…あなたにとって」というふうに、パウロとピレモンがどうすべきなのか、あなたにとっても、私にとっても。私を迎えるようにと私の心そのものですというようなことを言って、あなたと私は同労者としてひとつですねと、私が捉えられている時にあなたも思いやってくれていますということが土台になって、このお願いをしているというところの形も似ているものです。

こちら「祈り(4)と安心(7)」「安心(20)と祈り(22)」と言っていましたけれど、間も(5,6)、「信仰と愛」について聞いていました。(6,7)「信仰と愛」の話です。ここで(21)「従順と宿の用意」と書いてありますけれど、具体的ところで、従順と言っているのは、

従いますということで、コロサイの中でも言われているように、子が父に従う時の従う、奴隷が主人に従うという時の従う。これが従順ということです。それは、信仰の行いということ、信仰を表しています。従順、信頼している。それと「宿の用意もしておいてください」のほう(22)は、「旅人に宿を貸し」というマタイの福音書25章にあるように、これは愛の行動、兄弟に対する愛。旅人をもてなす、旅人に宿を貸すということが22節と思われますので、信仰と愛、信仰と愛ということで、この中も間も似ているものなのかなということで、ここに書いてあります。信仰と愛(4-7)、従順と宿を貸す愛の行動(20-22)。

あなたにとっても、私にとっても(8-14)、私にとっても、あなたにとっても(15-19)。私を迎えるように(15-19)、私の心を送り返します(8-14)ということで、この形がもっとよく似ていますというのがわかってきました。

前半後半なのか、abbaなのか、クロスのところは、はっきりしていますけれど、もう一つの並行はどっちかなと見ていましたが、こちらの組(4-7,15-19)と、こちらの組(8-14,20-22)かなということです。それが、ここに兄弟間と父子間と書いてあります。愛のわざと言っていますけれど、教会のリーダーと教会員、教会員同士というような意味です。こちら(4-7)は教会員同士です。教会の中での愛を聞いています。こちら(15-19)は兄弟としての愛をあらわしてくださいということです。こちら(8-14)はパウロが生んだ子どもを送るので、私に対しての忠実をあらわしてくださいというような感じです。

こちら(20-22)は、今度父を受け入れてください。父が送ることに対して子が受けましたよということで、今度は子どものほうからオネシモを受けたい。父親は子どもにオネシモを送っている。利益を送っている(8-14)。こちらは利益を受けたい(20-22)という父と子で、父が子どもに送りました。子どもが父に応答しますという父と子の愛について。それと、子ら、兄弟同士の愛についてが特にここでは言われていることかなということで、この構造上、兄弟愛(4-7,15-19)と親子関係(8-14,20-22)というふうに見るようにこの分析をしています。

是非コロサイとのつながりを見て、信仰の戦いという話と愛の段落のガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイというものと、テモテ、テトス、ピレモンとの関係というのも見なければいけないなということを示唆されているものだと思います。